

第14回成果報告会(オンライン開催)

日程：2021年3月28日(日)

時間：13:00-16:30

ZOOMでのオンライン発表（発表と質疑応答全体で一般発表12分、学生発表10分）

時間	セッション名	講演番号	発表者(所属)	タイトル	発表区分
13:00-13:05	開会宣言：加藤俊吾（成果報告会実行委員長）、開会挨拶：三浦和彦（理事長）、2020年度観測の概要：皆巳幸也（副実行委員長）				
13:05-13:17	①大気	1	野村渉平(国立環境研究所)	コロナ禍における富士山頂の大気中CO ₂ 濃度	一般
13:17-13:29	(富士山頂)	2	大河内博(早稲田大学)	雲水化学観測では富士山頂は世界一！：長期観測で見えてきたこと	一般
13:29-13:41	座長：	3	三浦和彦(東京理科大学)	微粒子が気候を変える！～富士山から見たエアロゾルの気候影響～	一般
13:41-13:51	和田龍一	4	木村駿(東京理科大学)	富士山頂で観測したエアロゾル粒子の雲凝結核への成長	学生
13:51-14:00	休憩				
14:00-14:12	②大気	5	皆巳幸也(石川県立大学)	ちよつと上まで行きます～ドローンで見る太郎坊上空の大気～	一般
14:12-14:22	(富士山麓)	6	石川翔(早稲田大学)	富士山麓から放出される植物由来ガス観測をマルチコプターで初挑戦！：夏季に向けて冬季にチャレンジ	学生
14:22-14:34		7	和田龍一(帝京科学大学)	富士山中腹における窒素酸化物濃度	一般
14:34-14:44	座長：	8	矢田茂久(東京都立大学)	富士山麓太郎坊でのCO、O ₃ 、SO ₂ の測定	学生
14:44-14:54	野村渉平	9	米戸鈴美香(早稲田大学)	富士山麓で夏季豪雨の実態解明にチャレンジ！：地球温暖化と大気汚染の相乗効果解明を目指して	学生
14:54-15:04		10	趙鶴立(早稲田大学)	富士山麓で冬季の大気中マイクロプラスチック観測に初挑戦！：新規サブミクロン赤外分光法(O-PTIR)の活用	学生
15:04-15:14		11	齋藤天真(東京理科大学)	東京神楽坂および富士山麓で測定した気柱全体のエアロゾルの光学特性・微物理特性	学生
15:14-15:25	休憩				
15:25-15:37	③雷・噴火など	12	鴨川仁(静岡県立大学)	雷雲の中に潜り込める世界最先端の雷研究の地、富士山	一般
15:37-15:49		13	鈴木智幸(静岡県立大学)	雷雲と宇宙の間で起こる放電発光、スプライト・エルブスらを絶景の富士山から観察する	一般
15:49-16:01	座長：	14	安本勝(富士山環境研究センター)	富士山観測によるリーダの進展モデル	一般
16:01-16:13	大河内博	15	長尾年恭(東海大学)	富士山の噴火予測観測をNPOLレベルを目指す～静岡県では初の全磁力観測	一般
16:13-16:25		16	加藤俊吾(東京都立大学)	富士山頂で火山ガス越冬モニタリング：富士山噴火に備える	一般
16:25-16:30	閉会挨拶：鴨川仁（副実行委員長）				